

人を孤立させない地域づくり



Society of Study for Community Welfare

地域福祉を考える会 (SSCW) 会報紙 ニュースレター

発行：2022年11月15日発行 第107号

認定特定非営利活動法人 地域福祉を考える会

〒259-1142 伊勢原市田中256番地の1-301

TEL: 0463-95-6665 FAX: 0463-20-9320

Mail: office@tiikifukusi.com

http://tiikifukusi.com/

菊薫る季節になりました。 みなさまお変わりございませんか。

理事長 萩原 鉄也



厚労省の「2018年 国民生活基礎調査」による相対的貧困の基準は世帯年収127万円、相対的貧困率は15.7%とされ、子どもの6人に1人が貧困ライン以下での生活を強いられています。こうした子どもたちの多くは、家庭内で何らかの課題を抱え、特に母子家庭の貧困率は、高くなっています。しかも、外見からはわかりにくく貧困を認知するのが難しいため、支援が困難となります。

また、親が過度な働き方をすることによって、体調を崩し、それにより、子どもは家事をしたり、兄弟の面倒をみなければならなくなります。何よりも心のより所を失うこととなります。そのほか、非行や虐待などの問題を抱えた子ども、不登校の子どもと、貧困状態であることの相関は高いとも言われています。

さらに親の経済的な困難は、子どもにさまざまな影響を及ぼし、世代を超えて連鎖します。親の経済的な貧困によって、学習や体験の機会を失い、学力が低下し、不安定な就業につながり、子どももまた貧困に陥るといった負の連鎖が起こってしまいます。

地域福祉を考える会では、子どもたちを見守り、寄り添い皆さんが安心して過ごせるコミュニティの場所として2016年6月よりいせはらみらいクルリンこども食堂、同年9月より学習サポートみらいつなぐ、2019年2月より子ども食堂 天 (Sora) キッチン、2022年4月より朝ごはんだよ～こども食堂などの子ども支援事業に取り組んでいます。会員やボランティアはもちろん、皆さまのご支援に支えられての事業です。今後ともよろしく申し上げます。

人生初の入院患者となって 病床で感じた不安

当会理事 島津 淳(桜美林大学教授)



今年2月から7月まで伊勢原市内の病院で複数回の入院・手術をしました。胆嚢胆石が肥大化していたため他の内臓と癒着していて、開腹手術を受けました。入院中多くの処置・検査を受けることになり、その中で麻酔が上手く効かなかった処置があり、無意識のうちに暴れてしまったようで、気がついたら病床で繋がられていました(身体拘束)。わたくしは厚生省専門官時代、介護保険制度政策立案に参画して、身体拘束を廃止しましたので、酷くショックを受けました。病棟では、ナースステーションの周りに車イスの高齢者が複数繋がられている光景をよく見ました。介護保険と医療保険の違いをまざまざと見せつけられました。

入院した2月24日は、ロシアがウクライナに侵攻した日でした。多くの報道番組では、政府有識者は「21世紀中期は戦争の世紀」と予測し「台湾有事」が話題となり、防衛費をGDP 2%以上アップ、向こう5年以内に防衛費を倍増、その後も増額していかないと「台湾有事」の抑止力にはならないという発言でした。さて倍増されていく防衛費の財源は何処になるのでしょうか。円安・物価高のなか、消費税のアップや赤字国債の発行、一般歳出の社会保障費や地方交付税の削減、選択肢は多くないと思われます。よく自助・互助(NPOによる地域共生)・共助(社会保険)・公助(公的扶助)と言われますが、研究者の議論では共助・公助が充実して互助・自助が成立すると言われています。政府の社会保障費等の削減により自治体がそれらをカバーすると言っても、伊勢原市歳入のうち税収は半分ほどしかなく、あとは地方交付税や補助金、市債の発行他です。戦争の世紀における福祉社会が危うくなるのではないかと不安になる入院でした。

こども食堂 開催予定

これまでこども食堂の会場として利用させていただいてきた「だいろくコミュニティー広場 来るりん」が使用できなくなりました。(2面記事参照)

次回からは会場が変更になりますのでご注意ください

1回 17:30~18:15 2回 18:15~19:15
入れ替え制に分けていたします。(各回15名ずつ)
参加する方は必ず申し込みしてください。

☎ 0463-95-6665

//氏名、住所、電話番号をお願いします//

●11月30日(水) ●12月21日(水)

各日とも 17:30~ 18:15~

上記2回の会場は「シティプラザ1F ふれあいホール」

※「お弁当」をいただきます(伊勢原市伊勢原2-7-31)

●1月18日(水) ●2月8日(水)・22日(水)

●3月8日(水) ●3月23日(木)

各日とも 17:30~ 18:15~

上記5回の会場は「伊勢原市中央公民館 4階 調理実習室」

(伊勢原市東大竹1-21-2)

児童コミュニティクラブだより

紅葉が一段と増す季節となりました。肌寒い日もありますが子ども達は毎日元気に過ごしております。これからはクリスマス行事に向けての制作が始まったり、マフラー作りをしたり室内での過ごし方も変化します。インフルエンザ対策に気を配りながら、また室内での遊びが密にならないように引き続きコロナ感染症対策に気を配り安心して過ごせる児コミ作りをしていきます。

4児コミ代表 安武敬子

10月31日のハロウィンパーティーに向けて「マント」「仮面」など制作しました。室内や廊下の壁にハロウィンの飾りつけ。当日は子ども達、支援員が仮装して「ハロウィン」の行事を楽しみました！

◆これからの児コミの行事予定◆
*クリスマス会
*初詣 *かるた会



児コミのクラブごとに趣向をこらして飾りつけ



子育てひろば「きらきら」

- ◆活動場所：シティプラザ 1F ふれあいホール
- ◆時間：午前10時～12時
- ◆参加費：一組100円 予約は不要

・出入り自由です。

次回開催 12月(6日、13日、20日)

<Xmasリース等の制作をしましょう>

20日(火)には、ユーコープいせはらのみなさまの紙芝居があります。お土産も頂けます。



みんなで準備を頑張りました！

成年後見部会から

今回は久しぶりに成年後見事業の現状についてお知らせします。

○被後見人の現況報告

2006年(平成18年)5月に横浜家庭裁判所小田原支部初の法人後見団体として活動を始めた当会成年後見部会ですが、今までに合計28名の後見人を受任しています。その内残念ながら3名がお亡くなりになり、1名が他機関に移管となって、現在24名の被後見人を受任しています。

内訳は、後見/11名、保佐/11名、補助/0名、任意後見/2名です。内高齢者が4名、障がい者が20名と障がい者の割合が高いのが特徴です。

被後見人の居住地は、伊勢原市/7名、小田原市/6名、相模原市/5名、南足柄市/2名、厚木市、秦野市、山北町、愛媛県(転居)がそれぞれ1名となっています。

○どうして障がい者の受任が多いのか？

障がい者の特性を理解した社会福祉士会の「ぱあとなあ神奈川」のような担い手がまだまだ少ないことや、財産の少ない方が多く後見人報酬が見込めないことなどがあり、当会のような市民後見人の役割が大きいことが主な理由と思われます。(近年では弁護士、司法書士、行政書士等の士業の方々も、団体を設立して障がい者の受任を積極的に行っていると聞いています)

また、被後見人が生活している障がい者施設やグループホームから新たな受任依頼があり、同じ施設から複数人受任していることも理由の一つです。(小田原市、相模原市の受任が多い理由でもあります)

○市民後見の現状

伊勢原市では社会福祉協議会内に成年後見・権利擁護推進センターを設けて市民後見人の養成と受任を進めています。また当会も所属している「かながわ法人後見連絡会」(県社協のかながわ成年後見推進センター事務局)には、現在13団体が所属しており、400名を超える被後見人を受任しています。 代表 勝田 俊一



団体紹介

※当会に支援を寄せていただいている団体様から
原稿をいただき、ご紹介するコーナーです。

まちなか共生のスペース「ふくじゅ」

ふくじゅは、2016年春に、大人も子どもも、高齢の方も障害のある方も、ケアを必要とされる方はケアする方と一緒に。団体・個人問わずどなたでも利用できる場(スペース)として開放しました。

しばらくして、車椅子の方も使い勝手が良いように入出口と台所やトイレなどの改修を行いました。出来上がった時はちょうどコロナで動けずに過ごしましたが、こんな時こそ皆で集う事を絶やしたくないと思い開放を続けています。Wi-Fi環境もあるので時にはzoomを交えながら使う方はいろいろな工夫をされています。普通の住宅なので元々大勢は無理で、それにコロナの制限がかかるので更に少人数になってしまっているのが残念です。

ふくじゅ独自では、最初近隣のお年寄り
と手作りお菓子をいただきながらお話しする「茶話会」を開いていました。2019年11月から毎月第3金曜日に地域包括支援センターのご協力をいただき認知症カフェ「オレンジカフェふくじゅ」に変わり、それまでの茶話会の雰囲気を引き継ぎ、サポーターの方々とお茶とお茶菓子でお迎えしています。介護は、気の持ちようであり辛い生活を選択できる時があります。情報を共有した



「ふくじゅ」

〒259-1131 伊勢原市伊勢原1-20-6-1F
詳しくは、サポセン「ふくじゅ」参照



り、日ごろの想いを聞いてもらったりすることで、「自分だけじゃない」「人に頼ってもいいんだ」と思えるきっかけになってもらえたらと思います。

また、第2金曜日には、NPO法人高次脳機能障害友の会ナナ(家族会)の地区会を開いています。こちらも情報交換や共有をしています。会員以外の参加も可能です。

地域福祉を考える会とは、根っこが同じ気がします。今年の4月からは、「こども朝食堂」を毎月第4月曜日にふくじゅで開いて下さるようになり、とても嬉しいです。これからもよろしくお祈りします。

寄稿:「ふくじゅ」
代表 福澤 順子



▲「朝ごはんだよ!」ののぼりが目印

活動報告

けんこう👉つなぐ👉うたごえ

9月17日(土) 参加者73人

台風の前兆がある中、お元気なお顔で皆さんがバス、車、徒歩でそれぞれ参加してくれます。10時30分から古川先生の指導で懐かしい歌や体操をいたします。

最後に「手話のお姉さん、お兄さん来てください」の掛け声で三瓶ミネ子さんと安藤弘さんが故郷、今日の日を皆さんと手話で唄いました。



第55回道灌まつり3年ぶりに開催

10月1、2日お天気に恵まれ、模擬店自体が縮小されましたが、皆様のご協力で楽しくできました。ありがとうございました。

出展予定



サポセンフェスタ2022に出展

パネル展示と「イイネ!ポスターグランプリ」市内の市民活動団体がポスターで「イイネ!」を競います。ぜひ会場に足を運んでいただき、当会のポスターに「イイネ!」と投票をお願いします。景品プレゼントや楽しいイベントも! めざせグランプリ!!!!

日時: 11月26日(土)・27日(日) 9:30~15:00
場所: いせはら市民活動サポートセンター

2022年度「賛助会員募集」

当会法人の活動目的や活動内容に賛同し、応援して下さる会員です。賛助会員の皆さまに継続的にご支援いただくことで、安定した活動ができるようになります。私たちと一緒に「人を孤立させない地域づくり」に取り組みませんか。年額(一口)5000円から何口でもご支援いただけます。なお、賛助会員の会費は、寄附金控除の対象になります。

横浜銀行 伊勢原支店 普通6116229
振込先 湘南農業協同組合 伊勢原支店 普通0001194
(郵便払込の場合)口座記号・番号 00240-6-105549
・いずれも「特定非営利活動法人地域福祉を考える会」

ご寄付者名簿(敬称略)

ありがとうございます

R4年9月1日~10月31日 (単位:円)

- 吉田宏 5,000 匿名 10,000 伊澤典男 20,000 藤田精密(株)従業員一同 23,100 (株)花いせ 5,000 羽入勇 20,000 中村達哉 10,000
- 飯田隆三 10,000 小野芳野 20,000 匿名 34,000 越地千恵 10,000
- 吉田重雄 5,000 東洋療術院間壁みみ 5,000 N・K 10,000
- 匿名 60,000 米倉力 30,000 遠山芳子 4,700 前澤博 15,000
- (有)秋山安太郎石材 20,000

合計 316,800円 令和4年度累計 1,465,610円

税制優遇の制度をご活用ください。

優遇を受けるには手続きが必要です。詳細については右のQRコードから県の情報をご覧ください。

